

## 76 自立支援局における視覚障害者に対する自立訓練（機能訓練）の標準的なサービス体系化に向けた取り組みについて

自立支援局	自立訓練部	機能訓練課	谷映志
	函館視力障害センター	支援課	中山修司
	神戸視力障害センター	支援課	木村宏輝
	福岡視力障害センター	支援課	高橋博

### 【背景と目的】

自立支援局における視覚障害者に対する社会適応訓練については、昭和 57 年 3 月刊行の『視覚障害者の生活訓練』を踏まえて作成された『生活訓練業務指針』（平成 6 年 3 月刊行）に沿って実施されてきたが、以降、概要については踏襲されつつも、評価の方法や細かな訓練の内容については各施設の裁量や各専門職の手法に委ねられ、検証されないまま現在に至っている。そのため、初期評価の内容や結果として算出される訓練期間、それを受けて実施される訓練の内容や水準にも相違がありうることから、その検証及び改善に向けた取り組みを開始することとした。

### 【経過】

平成 25 年 5 月から検討を開始。リハセンター並びに函館、神戸、福岡の各視力センターに担当職員を配置のうえ、年 3 回の検討会を実施してきた。確認の結果、初期評価の手続き自体は概ね共通していたが、訓練評価の様式が様々なうえ、実績を集約する様式もなかったことから、今後の集積・分析に備えて、共通様式の整備から着手することとした。

### 【結果】

訓練業務に関連する以下の様式を整備し、平成 26 年 2 月から全センター共通での運用を開始した。なお、平成 27 年 3 月末時点での有効データ（新様式での運用開始以降の訓練終了者数）は 64 件であった。

- ①訓練評価票：平成 22 年にリハセンターで作成されたものを基にして、主要 6 科目（歩行訓練、ICT 訓練、点字訓練、日常生活訓練、録音再生機器操作、ロービジョン訓練）について、各センターからの意見を反映しながら内容を精査。特に、ICT 訓練については、項目のスリム化（310 項目→163 項目）を図るとともに、パソコン操作に限らない、目的とする作業に着目した様式へと抜本的な見直しを行った。
- ②訓練記録：上記①の項目に基づいて作成。訓練項目ごとの実施時間数を集計可能にした。
- ③訓練実施状況集計表：上記②の結果を集約するとともに、データの類型化と標準時間数の算出を念頭に置いて、訓練時間数に変化をもたらさうる基本情報も入力するようにした。

### 【展望】

データの集積を継続し、一定数の蓄積が得られたところで、視力や視野などの指標ごとに分類のうえ、各県の標準的な訓練時間数を算出する予定。また、その結果を表にまとめることにより、全センター共通の評価基準として用いる。そのために、今後も定期的な検討の機会を設けるほか、日常的な意見交換の場として、オンライン会議も活用していく。さらに、訓練の水準の維持・向上を図るべく、訓練に関する情報共有や技能習得に向けた職員研修会の開催も検討していく。